

八十嶋洋子プレゼンツ

クララの室内楽

第5回

ゲスト 西原 稔 (音楽学者)

八十嶋 洋子 (ピアノ)



絵:三村晴子

助演:喜名玲子 (ピアノ)、吉江美桜 (ヴァイオリン)

私の不滅の恋人よ、運命が私達の願いをかなえてくれる様に.....
こんなにも愛し合っている人からどうして離れていなければならないのでしょうか

『ベートーヴェンともう一人の不滅の恋人.....テレゼ』

クララ・シューマン編曲:『ミルテの花』より“胡桃の木”(R.シューマン)

L.v.ベートーヴェン: ピアノソナタ 第14番 op.27-2『月光』

ピアノソナタ 第24番 op.78『テレゼ』

『君を想う』による主題と六つの変奏曲 WoO.74(連弾)

『遥かなる恋人へ』 op.98より

ピアノとヴァイオリンの為のソナタ 第5番 op.24『春』

『エリーゼのために』 WoO.59

2017年4月16日(日) 開演15:00 高輪プリンセスガールデン内 ホール アンビエンテ
(開場14:30)

料金 一般 ¥4,000 / 学生 ¥3,000 定員 120名 全席自由 要予約 ※未就学児のご入場はご遠慮願います。

チケットお申し込み ヤマハ銀座店 5階 ピアノ売場 TEL. 03-3572-3132 (電話受付 11:00~19:30)

共催/ヤマハ銀座店 03-3572-3132、スタジオ・フリーデル 03-5700-4055 後援/日本ブラームス協会 協力/銀座十字屋、(株)インターミューズ・トーキョウ

クララの室内楽が回を重ね、もはや恒例となったのは多分運営姿勢に拠るところが大きい。ロマン派の巨匠シューマンが、ピアニストとして有能であった妻クララと過ごした年月と、本会の主宰である八十嶋洋子が亡夫と過ごした歳月を重ね合わせ、家族と音楽を大切にきたクララの化身として、音楽を通じた愛の素晴らしさを問うシリーズがこの「クララの室内楽」だ。手作りのコンサートであり、真面目で実直なアプローチが客席にも伝わって来るのが特長で、一般の音楽史をなぞるのでなく、大作曲家の妻という視点や夫婦を取り巻く人間関係から、曲が出来た背景等が浮かび上がって来るのもまるで大河ドラマか、ソープ・オペラを観るかのような展開で面白い。シリーズ全8回が予定されるなか、『シューマンとクララ、シューマン家の音楽会』『クララとの結婚で湧き上がる愛の交歓、シューマン珠玉の歌曲集』『ブラームス、クララと歩んだ音楽の人生』そして、初めての文学とのコラボ『ナリとの謝野晶子、愛の確証……そして音楽』と好評のうちに4回を終えたが、回を重ねる毎に充実を見るコンサートであるのでは是非今後も足を運んでほしい。(銀座十字屋)



「二人のテレゼ……ベートーヴェンの創作は恋愛と深く結びついていました。しかし彼の恋愛は叶えられる事はありませんでした。『不滅の恋人』の手紙は有名ですが、この謎めいた手紙の宛先は誰なのでしょう？今回は「エリーゼの為に」を献呈したテレゼ・マルファッティと、ピアノソナタ第24番「テレゼ」を献呈したテレゼ・ブルンスヴィックを中心にベートーヴェンの創作を彼の恋愛を通して取り上げてまいります。(西原 稔)

西原 稔 (音楽学者)

山形県生まれ。東京藝術大学大学院博士課程満期修了。現在、桐朋学園大学音楽学部教授。18、19世紀を主対象に音楽社会史や音楽思想史を専攻。「音楽家の社会史」、「聖なるイメージの音楽」(以上音楽之友社)、「ピアノの誕生」(講談社)、「楽聖ベートーヴェンの誕生」(平凡社)、「クラシック 名曲を生んだ恋物語」(講談社)、「音楽史ほんとうの話」、「ブラームス」(音楽の友社)、「クラシックでわかる世界史」(アルテス・パブリッシング)、「ピアノ大陸ヨーロッパ」(アルテス・パブリッシング)、「世界史でたどる名作オペラ」(東京堂)などの著書のほか、共著・共編で「ベートーヴェン事典」(東京書籍)、「翻訳で「魔笛とウィーン」」(平凡社)、「監訳・共訳で「ルル」、「金色のソナタ」」(以上、音楽の友社)「オペラ事典」、「ベートーヴェン事典」(以上、平凡社)などがある。「シューマン全ピアノ作品の研究」(音楽之友社)は、2014年第26回ミュージックバンク音楽賞を受賞する。多くのレクチャーコンサート、テレビでの解説でも活躍中。



喜名 玲子 (ピアノ)

吉祥女子高校芸術コース、神戸女学院大学音楽学部ピアノ専攻卒業。在学中、学内選抜オウムコンサートに出演。第10回、第13回日本ピアノ教育連盟主催ピアノオーディション本選出場。ザルツブルグ・モーツァルト音楽大学夏期国際アカデミーにて、グレンツ・グレンツァー氏、ニース夏期国際アカデミーにて、ジャン・マリイ・コテ氏に師事。宝塚ベガホールにて、ジョイントコンサート開催他、ソロ、室内楽、伴奏で演奏活動を行う。これまでに、多賀ひとみ、八十嶋洋子、佐々由佳里の各氏に師事。現在、平塚学園松風幼稚園、花水幼稚園課外ピアノ講師。



吉江 美桜 (ヴァイオリン)

4歳から、石川杉子氏のもとでヴァイオリンをはじめ。2012年第66回全日本学生音楽コンクール高校の部東京大会一位。2014年第12回東京音楽コンクール第3位。2015年第84回日本音楽コンクール第3位。いしかわミュージックアカデミー、宮崎ミュージックアカデミー、ミュージックキャン in プラハを受講。ブラームス協会主催の演奏会等、数々の演奏活動を行っている。これまでに石川杉子、原田幸一郎、清水涼子、漆原朝子、神谷美千子の各氏に師事。ブラームス協会主催コンサート、ランチャイムコンサート、100万人のクラシックライブ等、ソロ、室内楽で演奏活動している。現在桐朋学園大学音楽部第2学年在学中。



八十嶋 洋子 (ピアノ)

東京都生まれ。東京藝術大学ピアノ科卒業。旧西ベルリンにてピアノをG・フックハルト、D・ヘクスタ両氏に、室内楽をR・ワインスハイマー氏に師事。在独中ジュネーブ国際コンクール他、多くのコンクールで伴奏ピアニストを務める。ベルリンのロイヤルアカデミーオブダンシングの正式ピアニストとして数々の公演に出演。1982年ベルリンフィルハーモニー室内楽ホールにて八十嶋龍三とのデュオでデビューの後、チェロとピアノの作品の研究を続け、ドイツ日本各地で演奏活動を続けた。大学在学中より永年にわたり、日本を代表する作曲家、平井康三郎氏に師事、多くの日本歌曲の初演、ピアノソロでNHK-FMに出演。現在ピアノソロをはじめ、(チェンバロを含む)室内楽奏者、伴奏者として活動の他、国立がん研究センター他での、病院、施設での音楽会企画にも積極的に取り組んでいる。これまでに、久保田裕子、林美奈子、松崎俊三、永井進、田村宏、の各氏に師事。吉祥女子中学高等学校非常勤講師。また、スタジオ・フリーデル、チェロアンサンブルの「ゴージュの会」を主宰し、恩師である「ベルリンフィル12人のチェリストたち」の創始者ワインスハイマー氏と現在の「12人」の協力を得て夫の遺志を継ぎ、チェロ合奏の楽しさを広めている。

アンビエンテ 東京都港区高輪4-24-40 高輪プリンスガルテン内
■JR品川駅(高輪口)より徒歩6分

アクセス
品川駅高輪口正面の信号を渡り、第一京浜国道を左へ真っ直ぐ。
Hotel東横インを過ぎて一つ目の角を右折。
150mほど直進して左側に見える最初の曲がり角を左折。

至横浜 至東京